

中期経営計画



進捗状況

ZEON

日本ゼオン株式会社

代表取締役社長 田中 公章

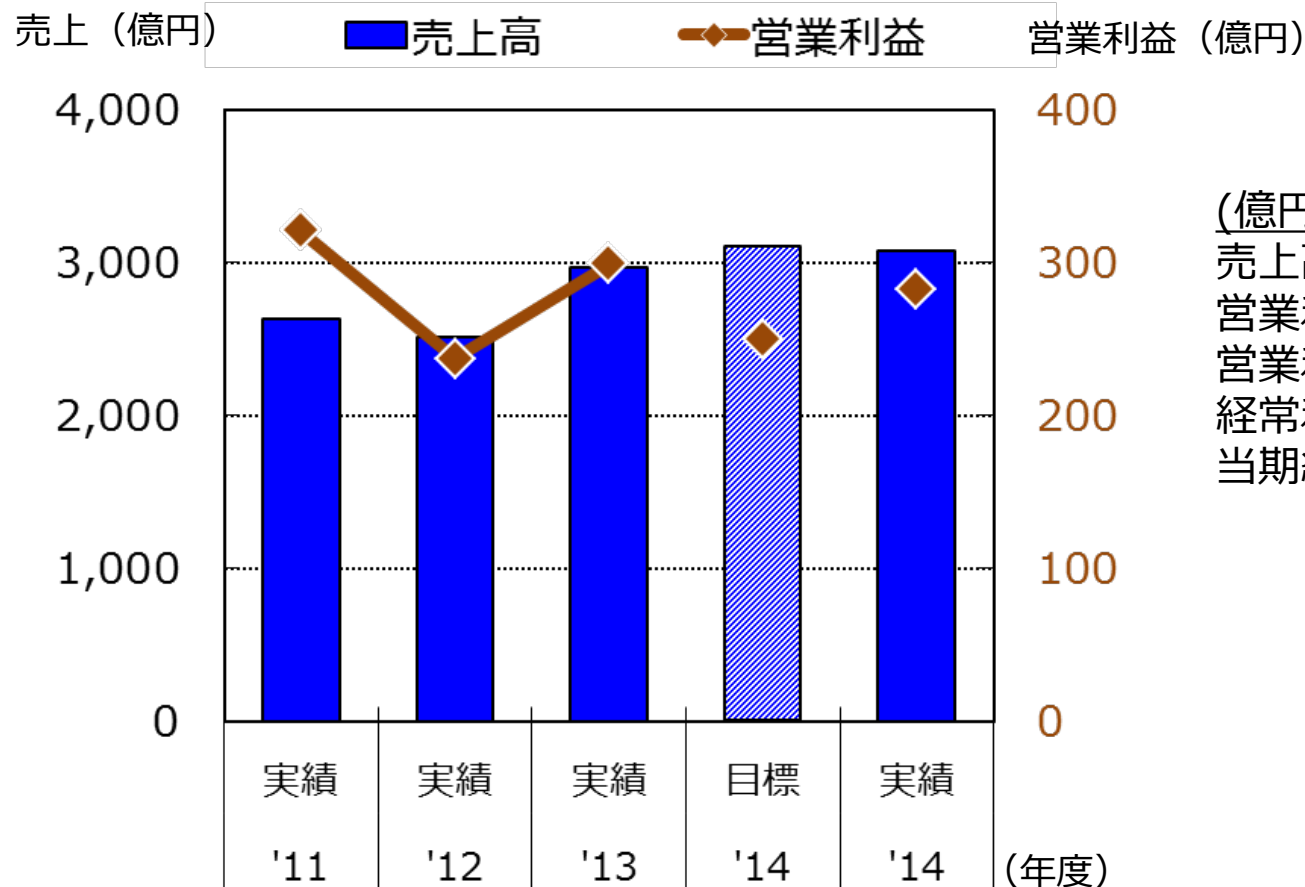
2015年5月8日

1. 2014年度業績と経営環境

2. 事業トピックス

3. 業績目標

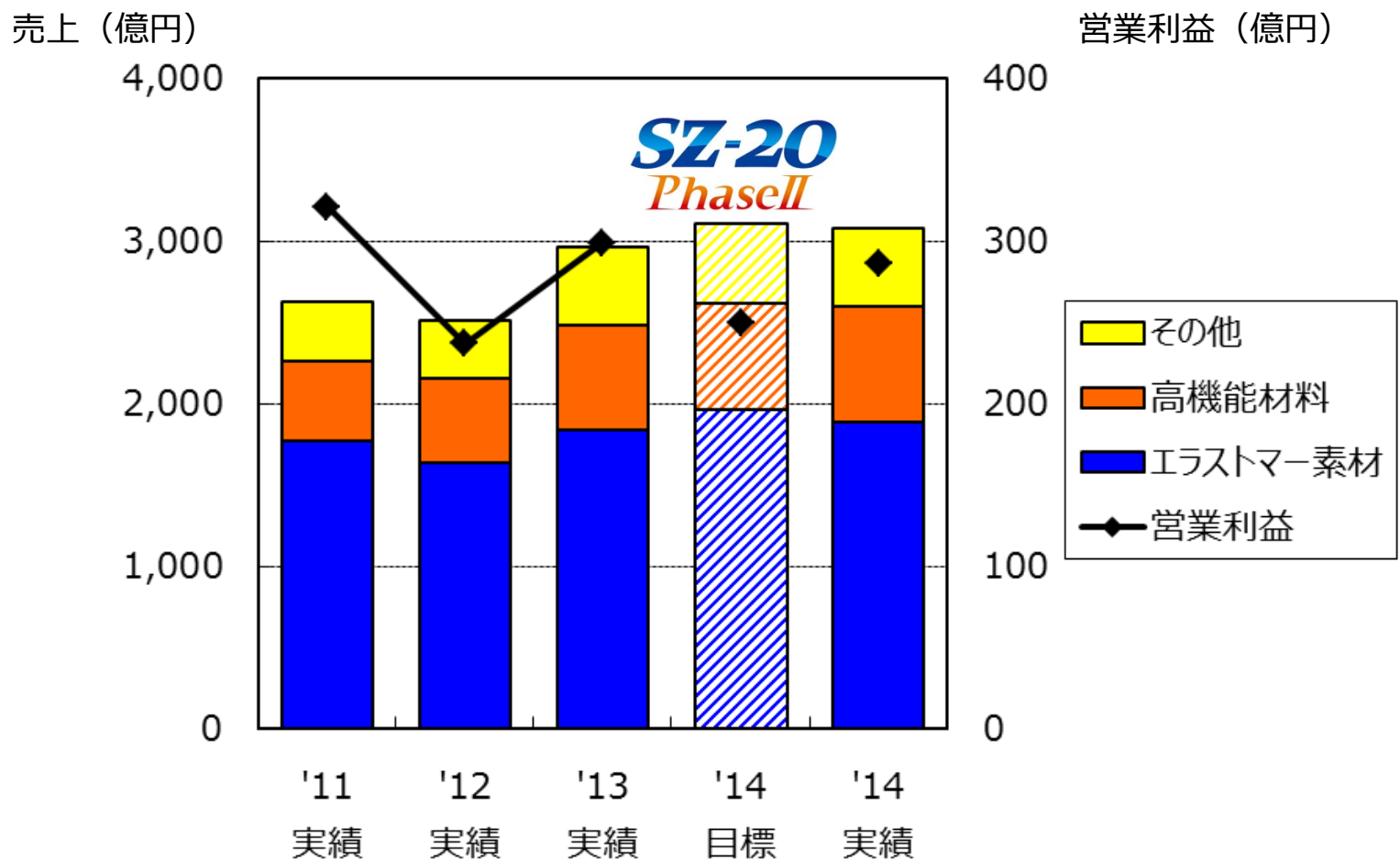
Phase II 初年度は売上高目標3,100億円をほぼ達成



Phase II 初年度		
(億円)	期初予想	実績
売上高	3,100	3,075
営業利益	250	282
営業利益率	8%	9%
経常利益	250	311
当期純利益	170	191

SZ-20
Phasell

エラストマー素材は製品市況悪化の影響を受けるも高機能材料は過達

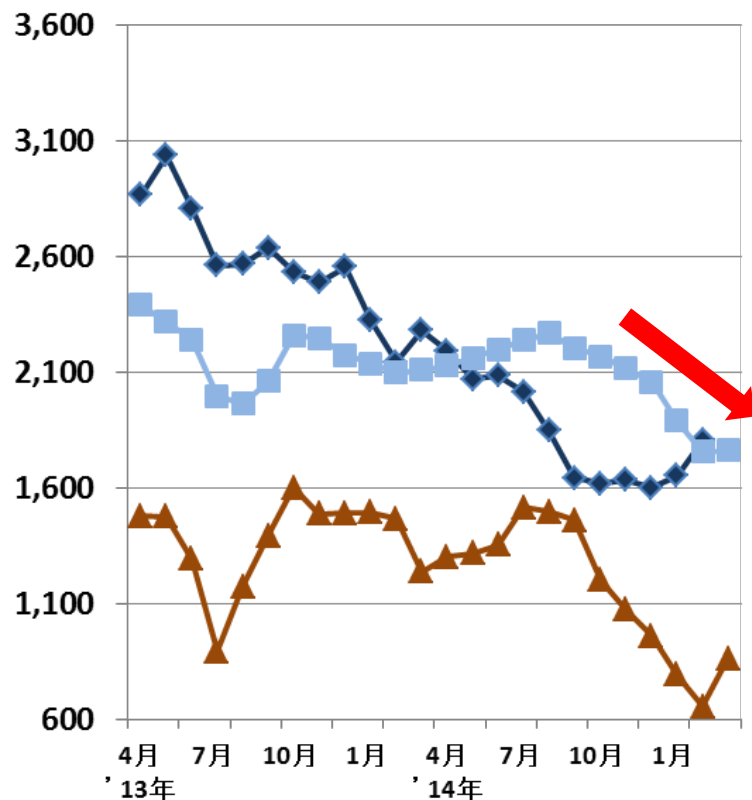


為替 (円/US\$)	79	82	100	100	109
国産ナフサ (千円/KL)	55	58	67	68	64

合成ゴムの市況は下落。原油価格急落等で原料価格は不透明。

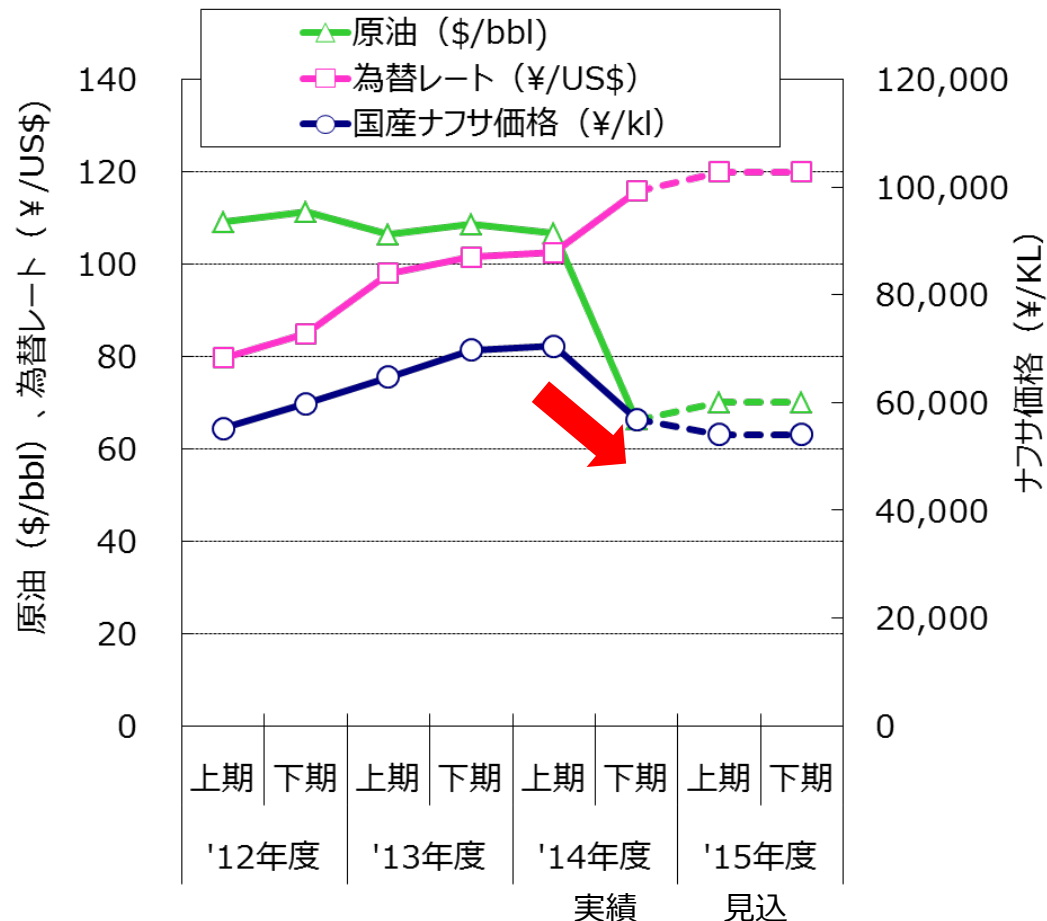
天然ゴム合成ゴムとBD市況

(US\$/mt) ◆天然ゴム ■NBR市況ICIS ▲Spot BD



天然ゴム市況_シンガポール期近RSS#3 (出典: 合成ゴム月報)
 NBR市況_CFR東南アジア (出典: ICIS)
 スポットBD_CFR東北アジア (出典: CMAI)

為替、原油、国産ナフサ価格



為替レート (出典: みずほ銀行)
 原油 Brent (ICE) (出典: CMAI)
 国産ナフサ (出典: 貿易統計より当社計算)

2020年のありたい姿

- 化学の力で
未来を今日にする
ZEON -

連結売上高5,000億円

■ 変える

- ・改革・改善の推進
- ・仕組みを変える
- ・風土育成

■ 計画の進捗管理と スピーディーな対応

'11 '12 '13 '14 '15 '16 '17 '18 '19 '20年度

Phase II

SZ-20

SZ-20

エラストマー素材事業と高機能材料事業の
それぞれの強みを磨き上げ、
両輪でグローバルに事業を拡大する

事業セグメント別戦略

エラストマー素材事業

成長市場への
グローバルな対応による
強い事業の更なる強化

高機能材料事業

重点3事業分野での
研究開発の加速による
事業拡大

事業セグメント別戦略

エラストマー素材事業

成長市場への
グローバルな対応による
強い事業の更なる強化

高機能材料事業

重点3事業分野での
研究開発の加速による
事業拡大

主力4グレードの顧客認証完了、シンガポール品の販売数量を拡大



S-SBR (溶液重合法スチレンブタジエンゴム)

シンガポール工場
第二系列着工 (2月23日起工式)
⇒2016年1月完成
2016年4月商業生産開始

シンガポール工場
主力4グレードの量産

安定供給継続

徳山工場

特殊グレードの量産
新製品試作→立上げ→量産
(パイロットプラント)

研究所

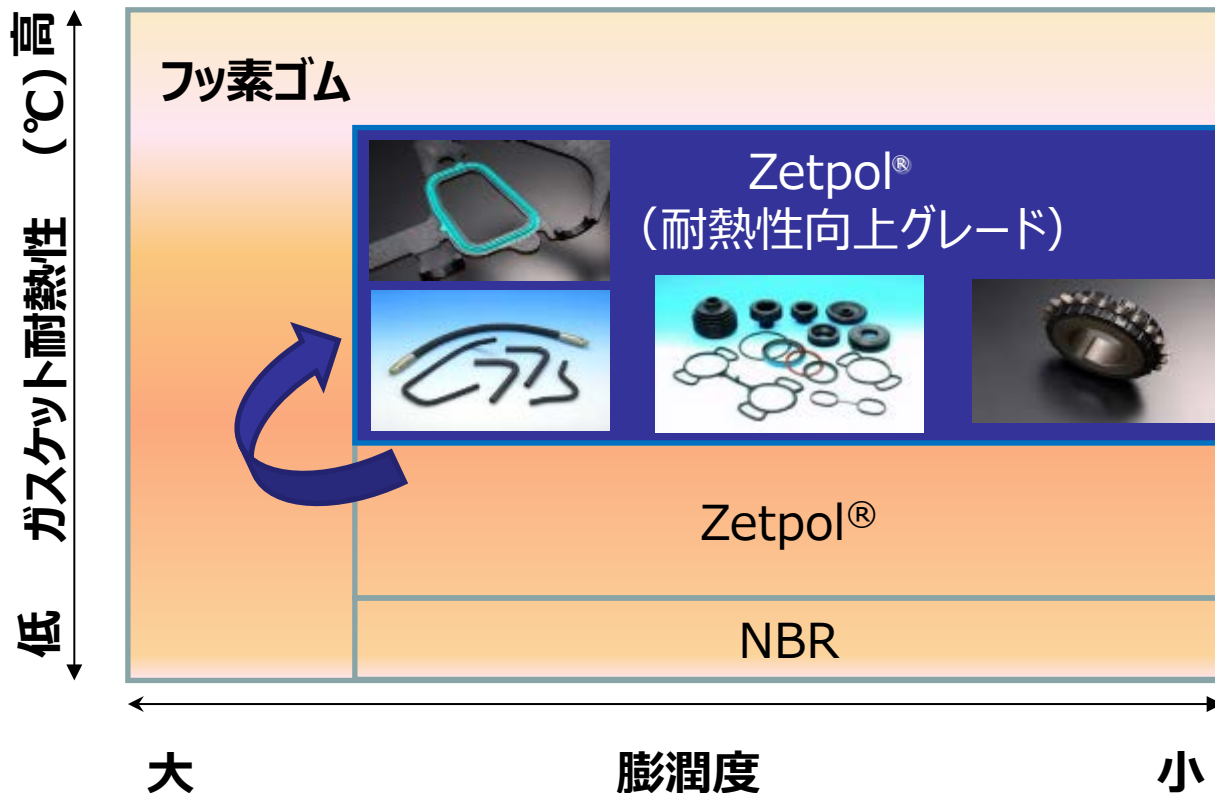
新製品の開発



S-SBRの主用途：
低燃費タイヤ

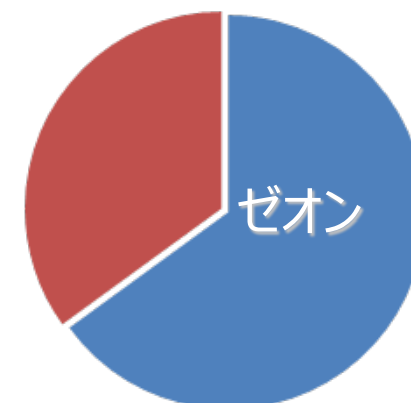
高機能化・低価格化を実現する自動車材料への対応

高い耐熱性が評価され、ガスケット、シール向けおよび
タイミングベルト用心線処理剤に採用開始



川崎工場内新規設備で商業生産中

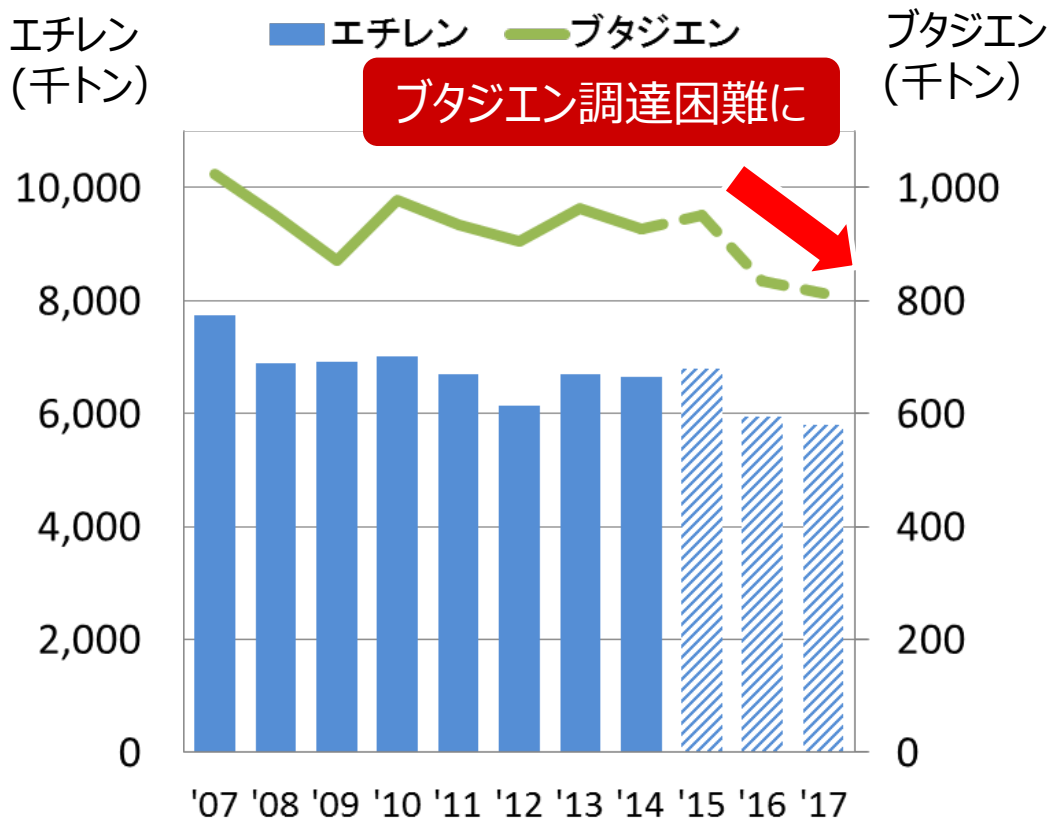
HNBR市場シェア



(出典：当社推定)

原料調達環境変化への対応含め、継続して最適生産体制構築を目指す

日本のエチレン・ブタジエン生産量



'15年以降は当社推定
(出典：経済産業省統計より)

ゼオンの合成ゴム生産能力

(数量：トン/年)

	日本	海外
E-SBR	80,000	
S-SBR	55,000	35,000
BR	65,000	
NBR	60,000	30,000
HNBR	4,500	5,000
IR	40,000	
ACM	8,500	8,500
その他		10,000

⇒シンガポール
2系列化で
+35,000トン
予定

次世代薄膜高強度手袋用NBRラテックスを上市

衛生意識向上・安全性重視



手袋需要増加

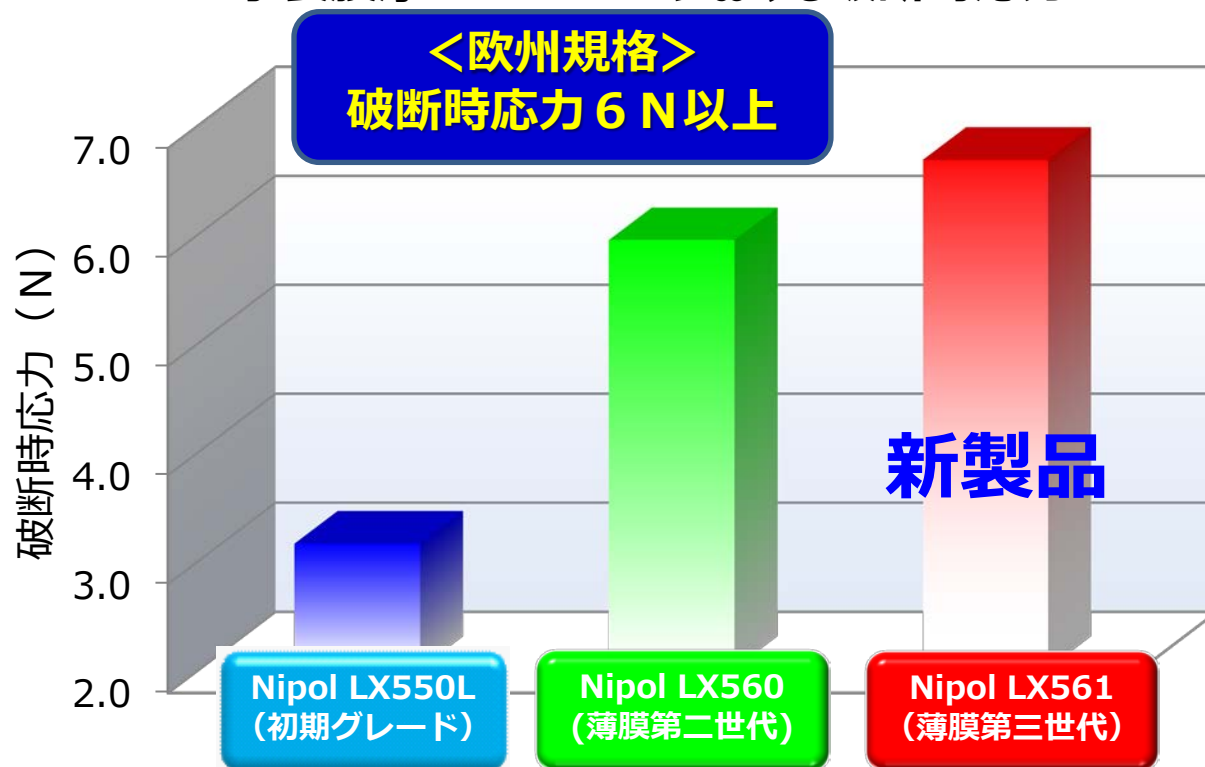


作業性・安全性向上要求



薄膜高強度化

手袋膜厚0.050mmにおける破断時応力



開発品は薄膜化しても十分な強度を有し、薄くできる事での作業性向上も見込む。

熱可塑性エラストマー（SIS）の生産能力増強を決定

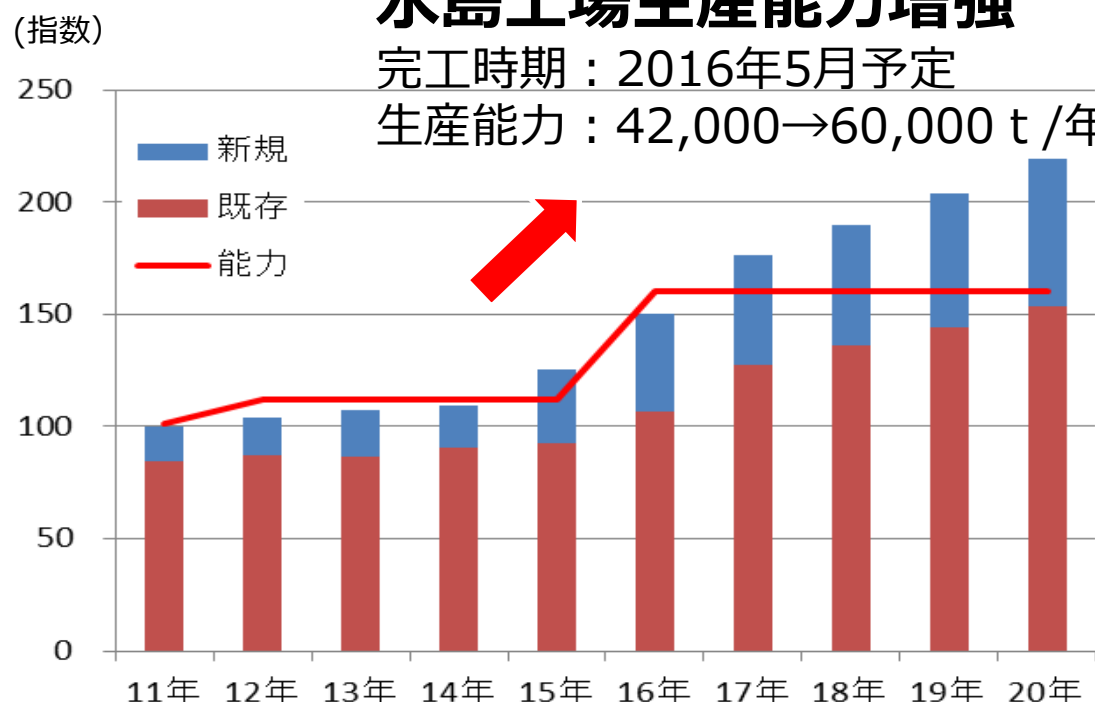
当社SIS販売計画と生産能力

水島工場生産能力増強

完工時期：2016年5月予定

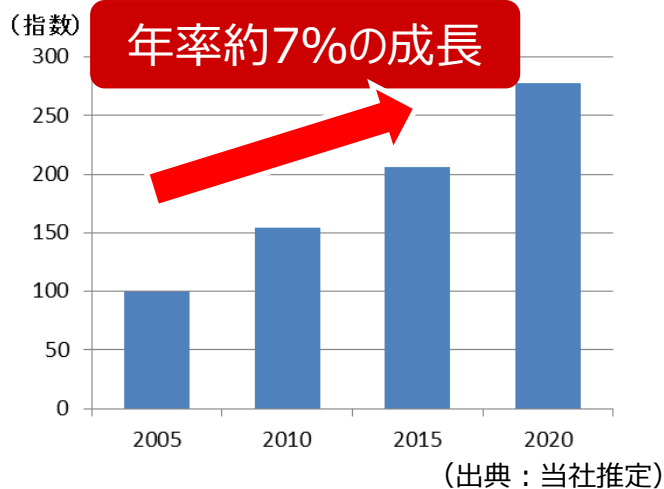
生産能力：42,000→60,000 t/年

4月21日
プレスリリース

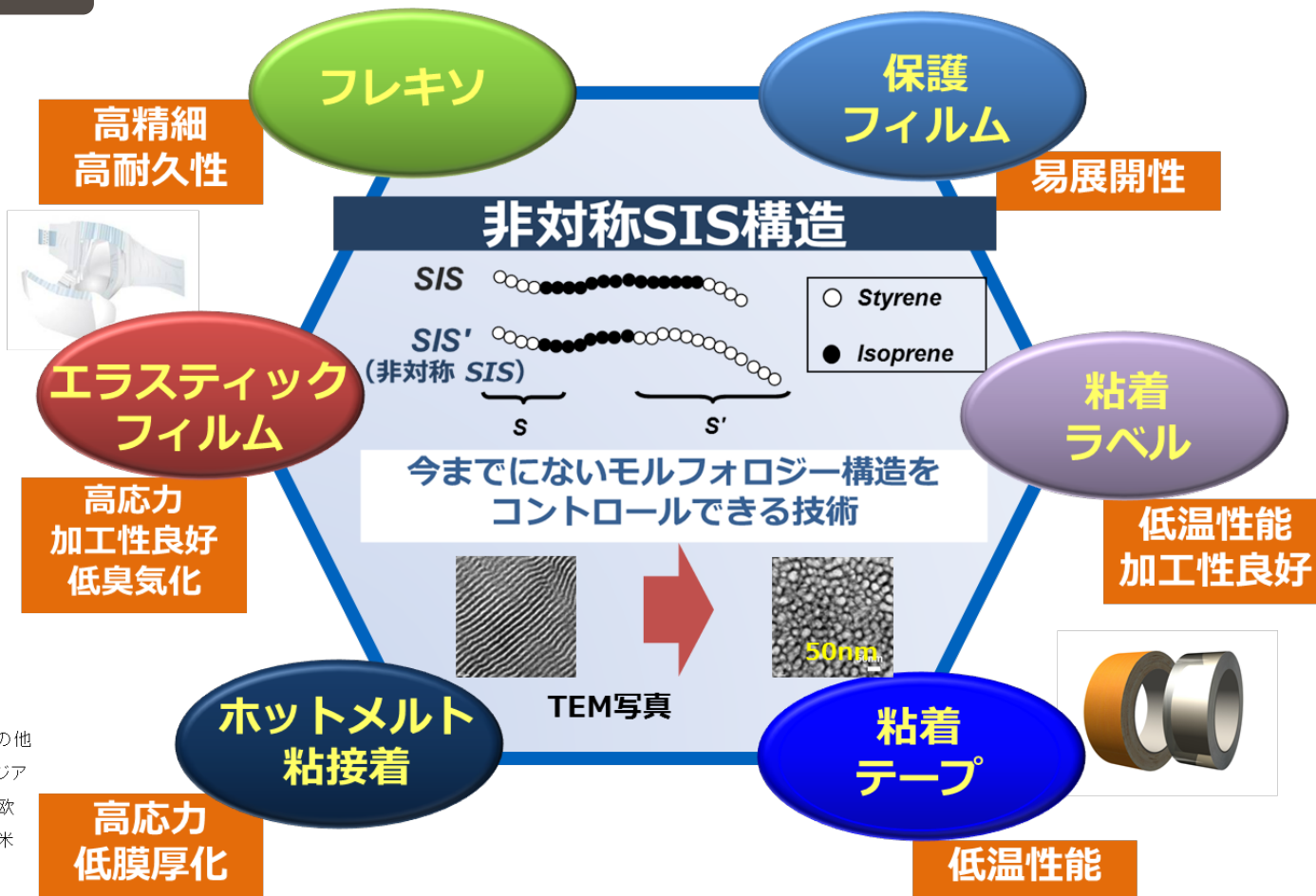
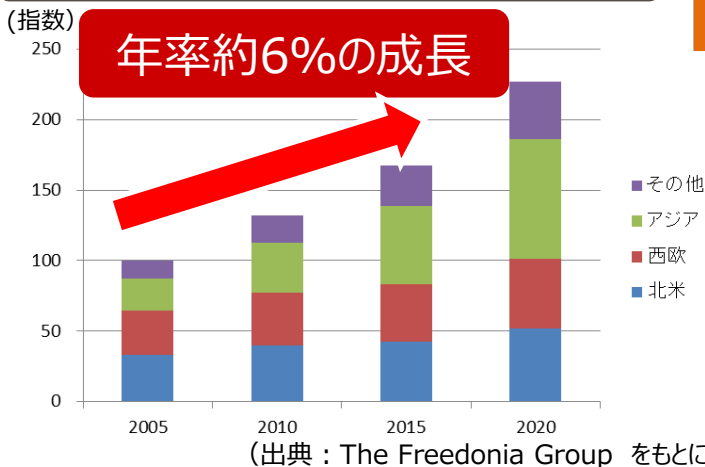


非対称SIS による新規用途拡大

世界の紙オムツ市場の推移



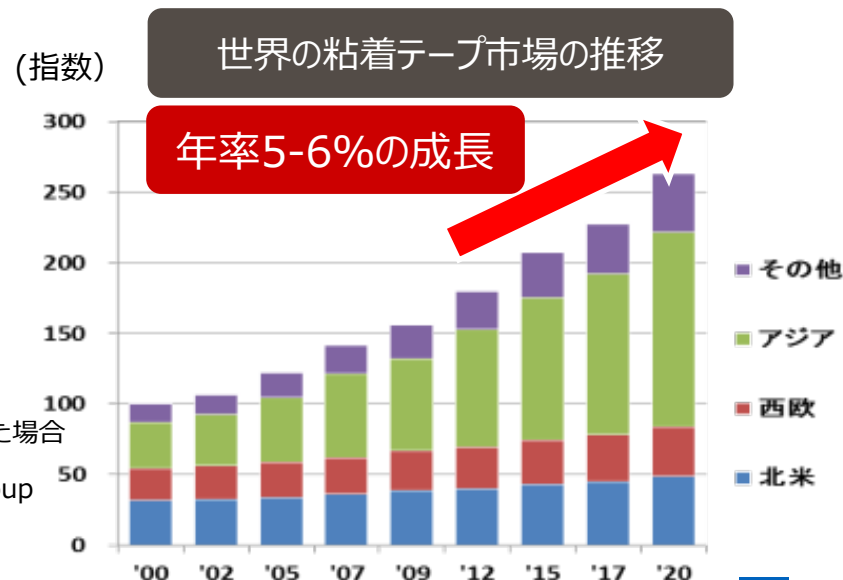
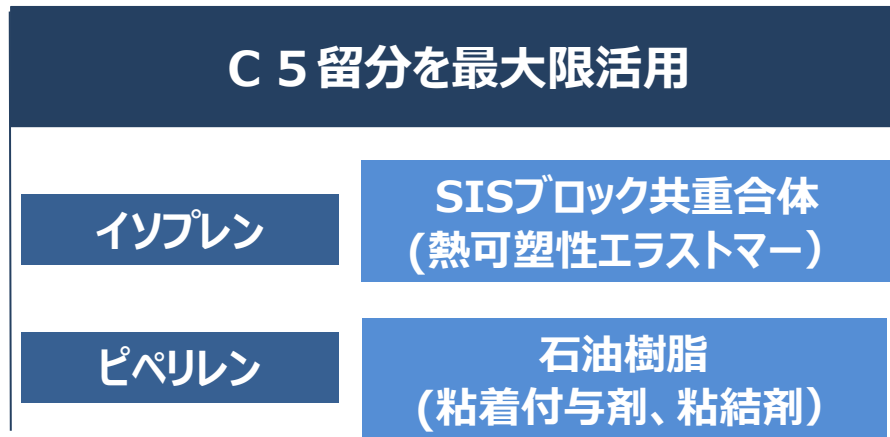
世界の粘着ラベル市場の推移



ゼオン独自のイソプレン抽出技術を活用、海外で事業化する。



既存のイソプレン抽出プラント（水島工場）



事業セグメント別戦略

エラストマー素材事業

成長市場への
グローバルな対応による
強い事業の更なる強化

高機能材料事業

重点3事業分野での
研究開発の加速による
事業拡大

高度情報化社会の実現

省エネ・蓄エネ・創エネ

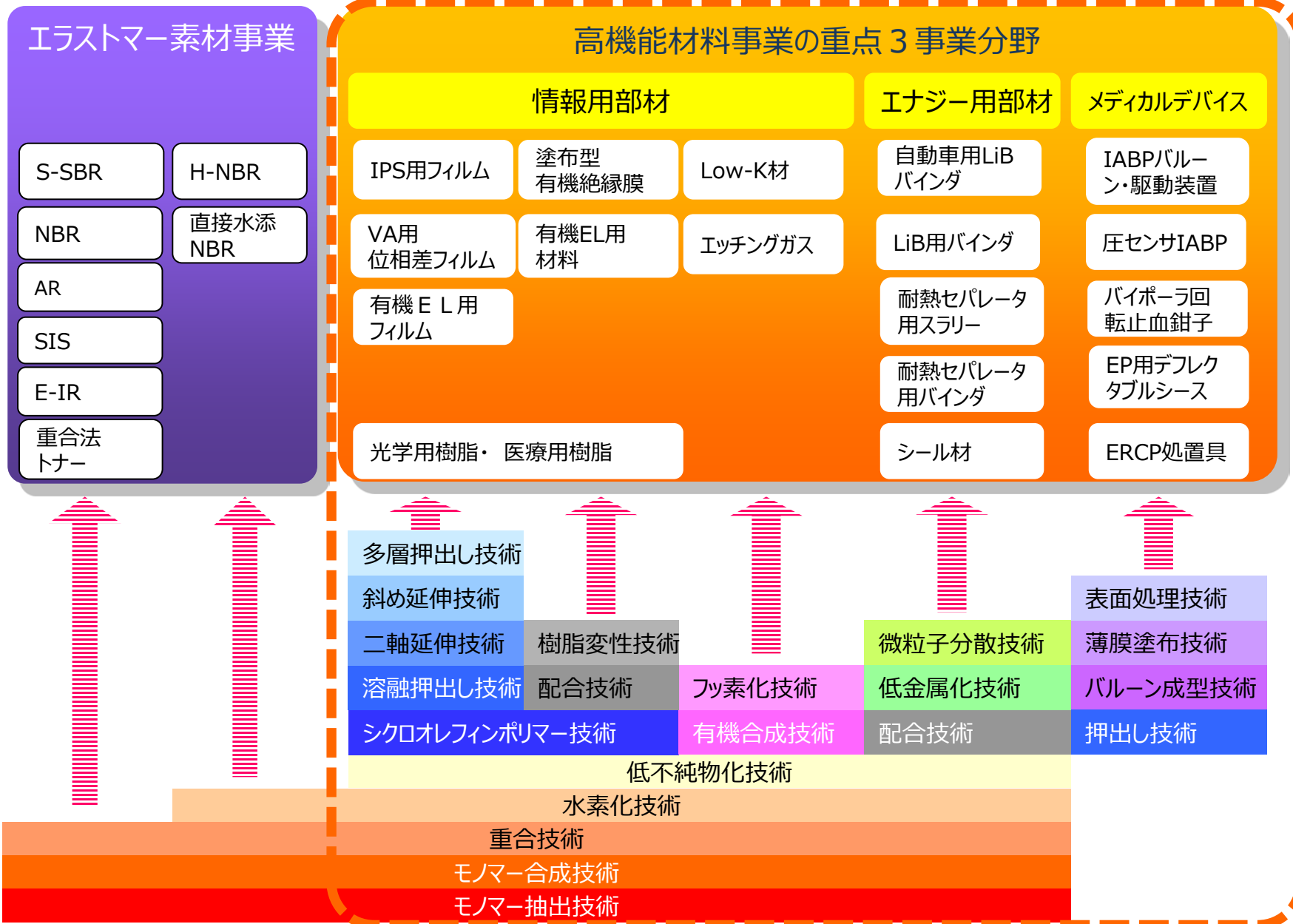
QOL（生活の質）向上

高機能材料事業の重点3事業分野

情報用部材
(オプト用) (実装用) (電子用)

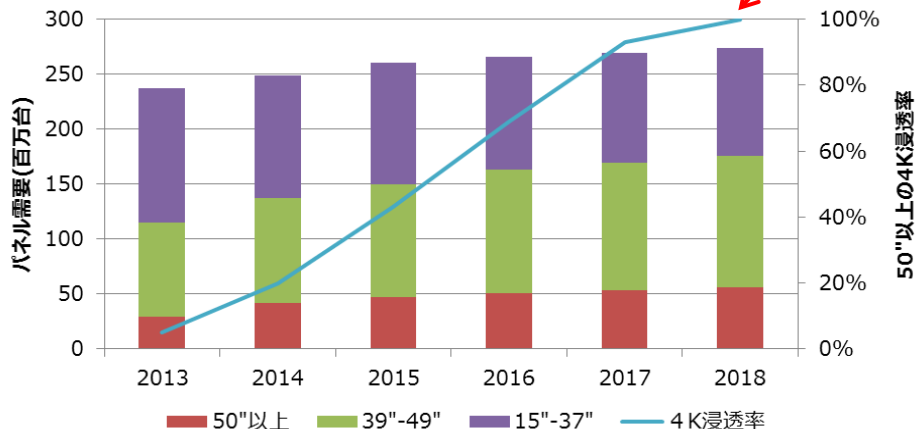
エネルギー用部材

メディカルデバイス

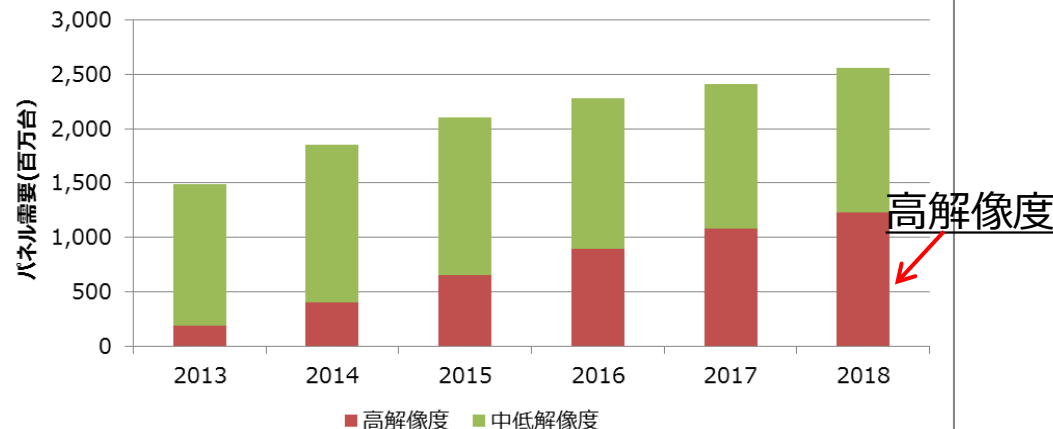


TV向け、中小型向けともにゼオノアフィルムの需要は今後も拡大

液晶TVパネル需要と50"以上TVの4K浸透率 **4K浸透率**
(出展: The 28th DisplaySearch Japan Forum)



スマートフォン&タブレット用パネルの解像度別需要
(出展: The 28th DisplaySearch Japan Forum)



TV市場：大画面化・高精細化
50"以上TVの4K浸透率100%へ

中小型市場：大画面化・高精細化
高解像度製品の成長著しい

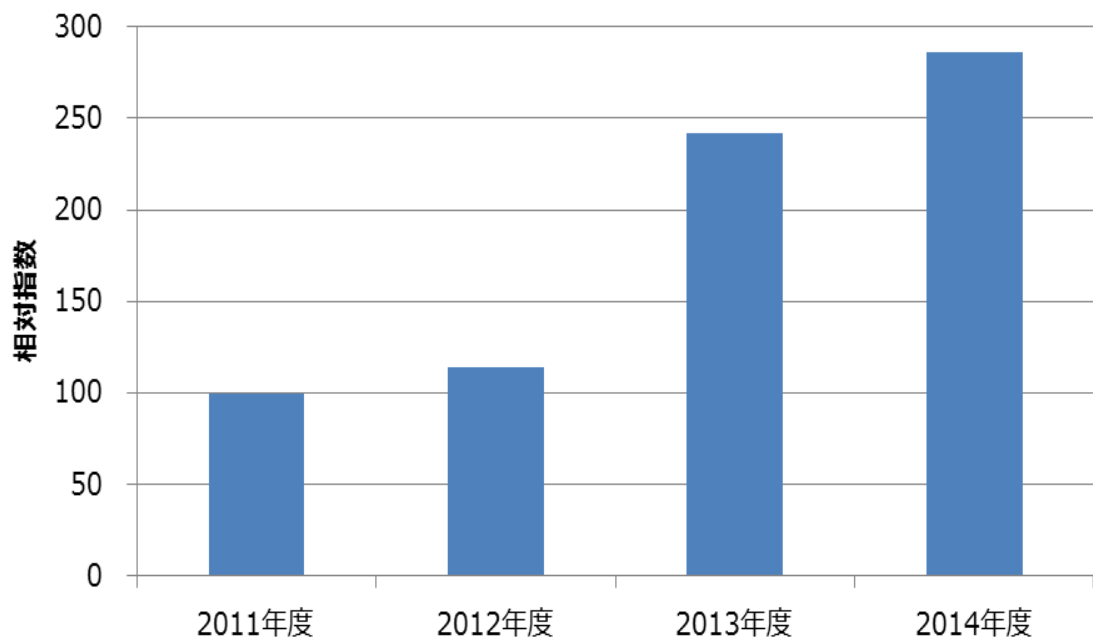


ゼオノアフィルム®の特長が活きる

- ・寸法安定性
- ・反射防止
- ・高透過率
- ・薄型構成対応

販売数量は過去最高、生産能力増により今年度もさらに拡大

フィルム販売数量推移
(2011年度を100とした相対指数)



(指数：'11年度販売量を100とした場合)

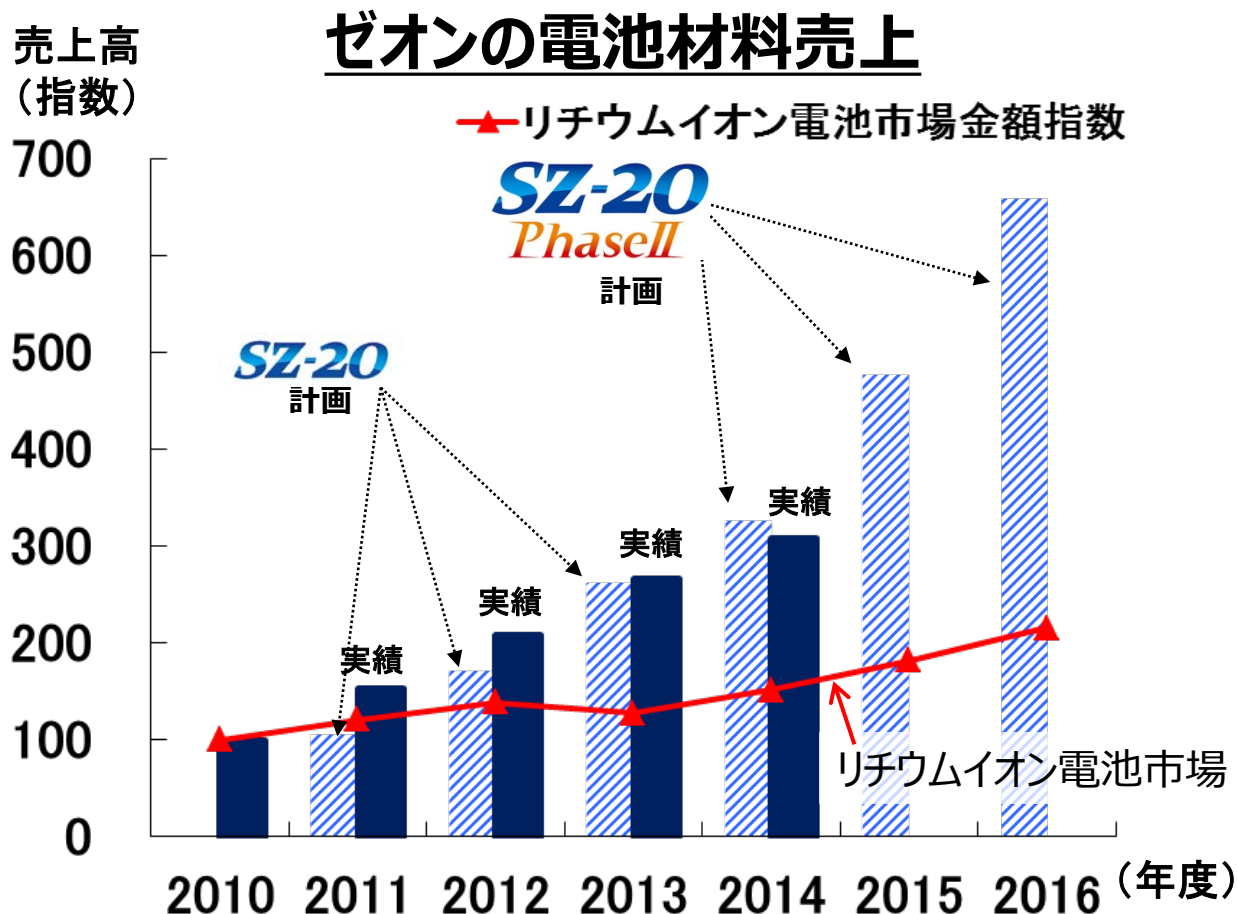
氷見第5系列(TV用)稼働

稼働年月：2015年2月

生産能力：3,000万m²/年



製品群を拡大させ、順調に事業拡大

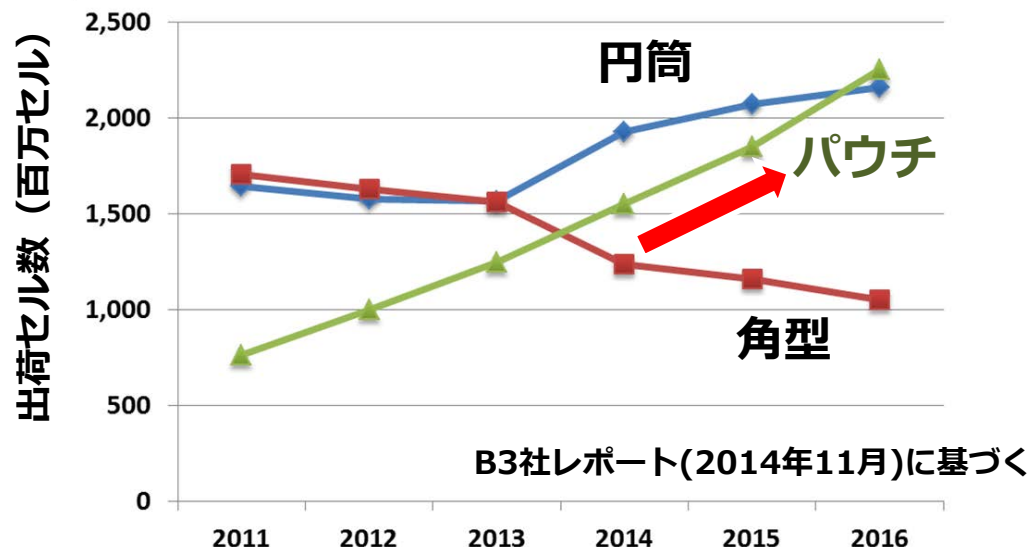


* 指数は2010年度を100とした場合

* 市場金額は、B3社レポート(2014年11月)に基づく

バインダー事業で培った技術を基に、市場要求に対応し事業拡大

モバイル用リチウムイオン電池形状別推移

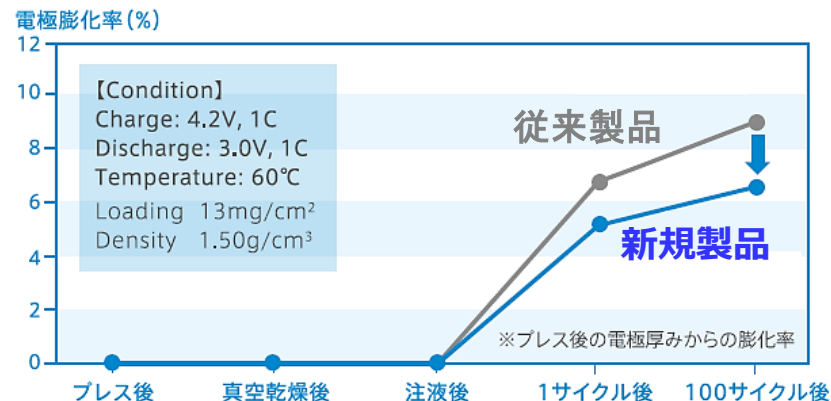


パウチセル (スマホ用) に対応した製品を市場に提案して事業拡大を図る。

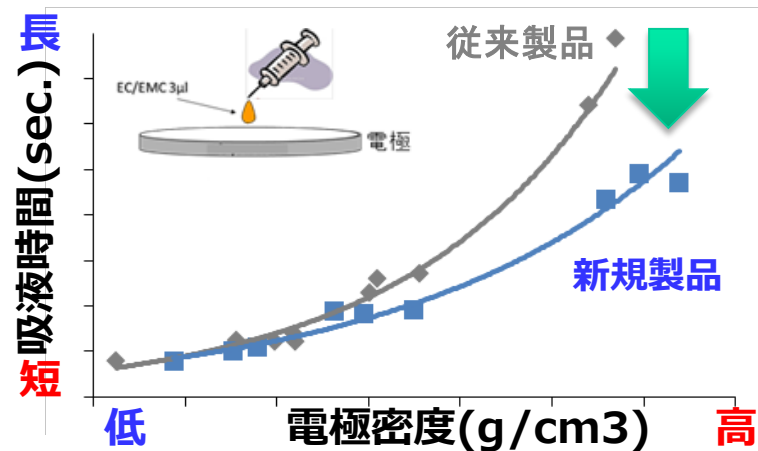
製品の特長

- ① 電極膨らみの抑制
- ② 電解液含浸性の向上 (高密度電極)

① 電極膨らみの抑制



② 電解液含浸性の向上



『石採りのゼオン』が提案する、ガイドワイヤアシストタイプの新製品
【クラッシャーカテーテルM】（2015年3月上市、結石碎石デバイス）

* 石流しオフセットバルーンカテーテル（2014年7月上市、結石採石デバイス）に続くラインナップ

特長

・胆道へのスムーズな挿入性

ガイドワイヤルーメンチューブ、コイルシース採用

・優れた操作性

軽量、高強度なクラッシャーハンドル採用

* 結石の碎石性は、独自設計のバスケット形状により従来品と同等性能を確保しています

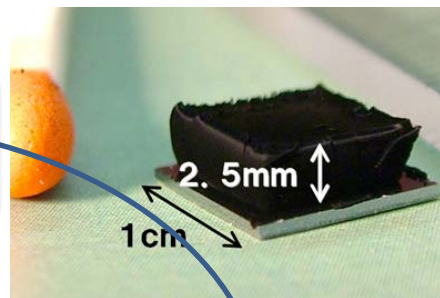


(国立研究開発法人)産業技術総合研究所発 「スーパーグロースカーボンナノチューブ」

長尺

①長い

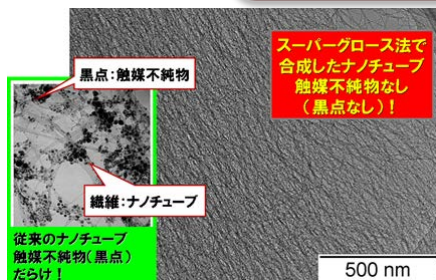
最大mm単位の長さ！



純度

②純度が高い

触媒不純物1%未満！



比表面積

③表面積が大きい

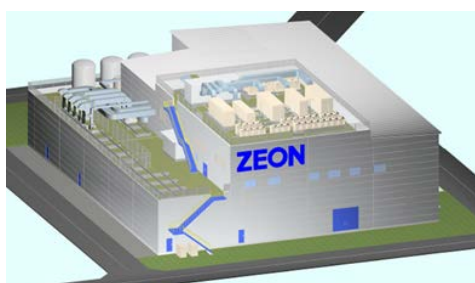
(比表面積: 800m²/g以上)

炭素系繊維物質で最大！

多くの差別化特性を有する

'15年度下期 カーボンナノチューブ量産工場稼働 既存事業との融合、新事業創出でSZ-20 Phase IIへ貢献

Sales/Revenue ↑



カーボンナノチューブ
研究所発足 ('15年4月)
量産工場稼働 ('15年度下期)



新技術開発 新規事業の強化



蓄電デバイス

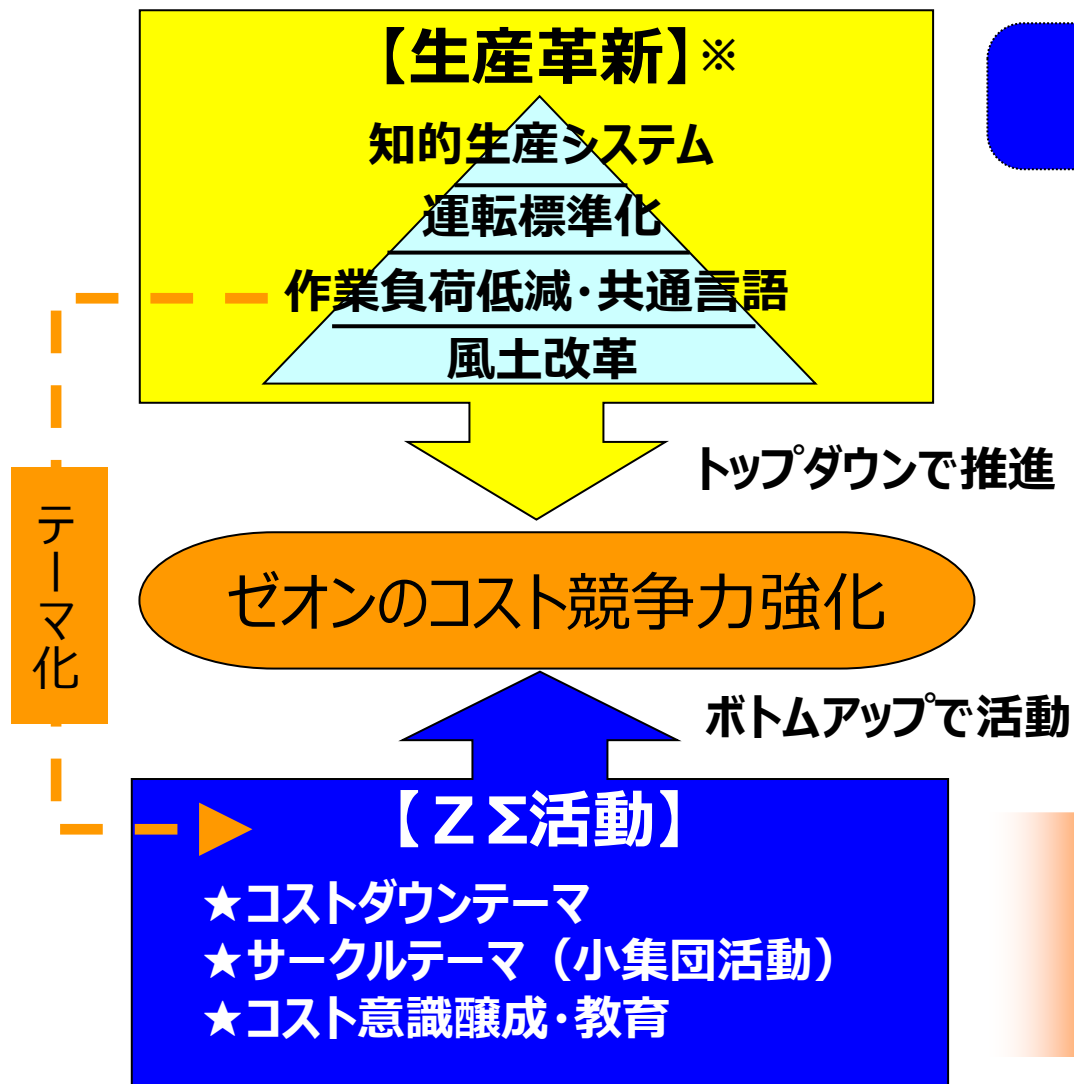
電子デバイス

新事業創出



既存事業との融合 ゴム部材の高機能化

革新・改善活動を継続



ZΣ活動 効果額

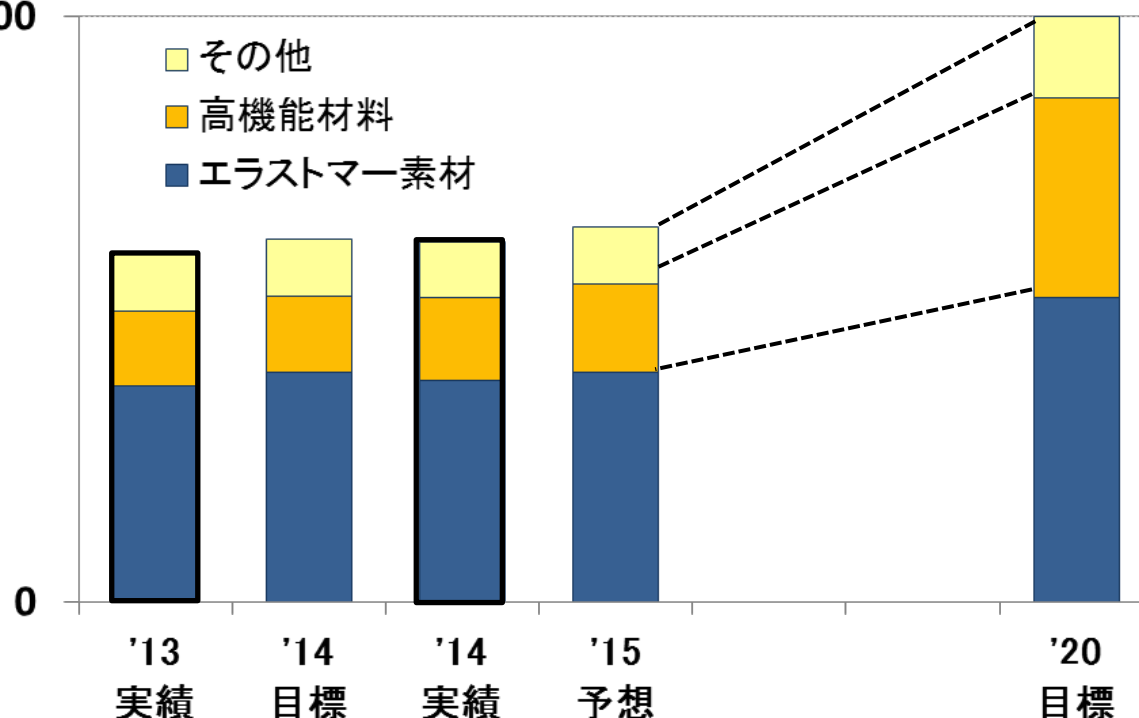
毎年約60億円の効果



※生産革新：ダイセル式生産革新手法

2020年度 連結売上高5,000億円 を目指す。

売上高
(億円)



'13年度 実績	'14年度 目標	'14年度 実績	'15年度 予想
2,964	3,100	3,075	3,200
10.1%	8.1%	9.2%	10%

'20年度 目標
5,000
10%

(億円)

連結売上高

連結営業利益率

スピード

対話

社会貢献

－仲間との相互信頼－

以上

本資料に掲載されている当社の計画、見通しなどは現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

ZEON
日本ゼオン株式会社

CSR統括部門 広報室

東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル

Tel:03-3216-2747, Fax:03-3216-0501